

早稲田大学 物理学科 創立 50 周年記念会

2014 年 11 月 2 日 (日) 13:00 ~ 19:00

早稲田大学 西早稲田キャンパス (旧大久保キャンパス) 63 号館 2 階



早稲田大学物理学科創立 50 周年記念会企画

主催：早稲田物理会、早稲田大学 理工学術院 先進理工学部 物理学科

共催：早稲田大学 理工学術院 先進理工学部 応用物理学科

同 上

大学院 先進理工学研究科 物理学及応用物理学専攻

早稲田大学 ナノ理工学研究機構 自己組織系物理ホリスティック研究所

後援：早稲田応用物理会

早稲田大学物理学科創立 50 周年記念会「今までとこれから」
開催のご案内

早稲田大学理工学術院先進理工学部物理学科は、今年度、創立 50 周年目の節目の年を迎えました。この記念すべき年に、私たち早稲田物理会と物理学科は 50 周年記念会を開催いたします。

振り返ってみれば、この 50 年間に日本は大きな変革の波に揺さぶられました。高度経済成長とバブルからその崩壊、失われた 20 年といわれる経済低迷、さらにリーマンショックによる追い討ち、そしてこのところの日本には、なにやらうっとうしい閉塞感すら漂っているように感じます。

一方、物理の世界でもこの 50 年で数々の新たな発見や理論の前進がありました。大自然の奥深さ、神秘性、その輝きはますます強くなっているように思います。

そんな時代に同じ学府に物理学を学んだ仲間同士、現役学生が一堂に集い、物理学の重要性、それを学べることの幸せ、そして未来の夢など、現状を打破すべく、次代の 50 年に熱く思いを馳せて大いに語り合いたいと思います。

記念会は記念式・記念講演会と懇親会という構成で、大久保の理工キャンパス（西早稲田キャンパス）内にて行います。記念講演会では下記の通り、早稲田で学ばれ、現在も大学の内外で活躍されている方々に登壇していただきます。

この機会に、懐かしい先生方や先輩諸氏、そして同期の仲間との意義深いひとときを過ごしていただきたいと思います。応用物理学科の卒業生も同じ研究室に机を並べた仲間として、応用物理学科の在学生も同じ教室で物理学を志している仲間として、一緒にお祝いにご参加ください。多くの方々のご出席をお願いいたします。

———— プログラム ————

【記念式】 13:00 ~ 13:30 理工 63 号館 2 階会議室

【記念講演会】 13:30 ~ 16:00 同 上

1. 石渡 信一 氏（早稲田大学 先進理工学部 物理学科 教授）
「早稲田における生物物理の展開」
2. 寄田 浩平 氏（早稲田大学 理工学術院総合研究所・先進理工学部 物理学科 准教授）
「ヒッグス粒子の発見とこれからの素粒子物理学実験」
3. 岸本 彩 氏（早稲田大学大学院 先進理工学研究科 物理学及応用物理学専攻 博士課程 1 年）
「放射線イメージング研究の魅力と挑戦」
4. 岡野 啓介 氏（徳山大学 学長・教授）
「地方私立大学の生き残りをかけた物理屋の悪戦苦闘」
5. 尾関 章 氏（科学ジャーナリスト）
「啓蒙から批評へ——早大物理こそ」

【自由時間】 16:00 ~ 17:00 各研究室訪問など

【懇親会】 17:00 ~ 19:00 理工 63 号館 1 階「馬車道」
会費：OB・OG 10,000 円
学生 2,000 円

※お問い合わせはメールでこちらまで：phys50@list.waseda.jp

記念講演会 講演者プロフィール

石渡 信一（いしわた・しんいち）氏

早稲田大学 先進理工学部 物理学科 教授

「早稲田における生物物理の展開」

専門は生物物理学、とくに筋収縮系（骨格筋、心筋）、細胞分裂系（染色体分配）、細胞内物質輸送（タンパク質分子モーター）といった運動システムの、1分子レベルから分子集合体・細胞に至る、生物運動の仕組みに関する階層的研究。1969年東京大学理学部物理学科卒（1965年に開設された早稲田物理も受験し合格）、1974年名古屋大学理学部物理学科博士課程単位取得退学、1975年同理学博士。1976年MIT博士研究員などを経て、1979年物理学科専任講師となり、1986年以来現職。2009年からは早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所（WABIOS）所長を兼務。



寄田 浩平（よした・こうへい）氏

早稲田大学 理工学術院総合研究所・先進理工学部 物理学科 准教授

「ヒッグス粒子の発見とこれからの素粒子物理学実験」

専門は高エネルギー素粒子物理学。2005年早稲田大学にて博士（理学）取得。米国Fermilab客員研究員、シカゴ大学フェルミフェロー等、6年間の海外研究生活を経て、2008年10月より現職。Tevatron実験（米国）からLHC実験（欧州）と、世界最高エネルギー加速器実験でヒッグス粒子や標準模型を超える新粒子探索を遂行。一方、暗黒物質直接探索のための高感度検出器の開発も行っている。



岸本 彩（きしもと・あや）氏

早稲田大学大学院 先進理工学研究科 物理学及応用物理学専攻 片岡研究室 博士課程1年

「放射線イメージング研究の魅力と挑戦」

2011年早稲田大学先進理工学部物理学科卒業、2013年同大学院先進理工学研究科物理学及応用物理学専攻修士課程修了。卒業研究より片岡研究室にて放射線応用物理学研究に従事。2012年「第26回独創性を拓く先端技術大賞 特別賞」をガンの診断手法の一種であるPET装置の高解像度化に関する研究で受賞。医療や除染現場で役立つ放射線可視化技術の開発をテーマに、研究に邁進する日々を送っています。講演では、その一端を紹介させていただきます。



岡野 啓介（おかの・けいすけ）氏

徳山大学 学長・教授

「地方私立大学の生き残りをかけた物理屋の悪戦苦闘」

1949年生まれ。1973年早稲田大学理工学部応用物理学科（並木・大場研究室）卒業、1979年理学博士号取得。その後、早稲田大学理工学部物理学科助手、西独ゾーゲン大学物理学科助手等を経て、1990年徳山大学に赴任。2003年より経済学部長、2009年より徳山大学学長（徳山教育財団・常任理事）。学部長を拝任以来、学部改革に明け暮れ、物理学の研究から離れてしまったのが残念です。最近では、「EQ教育」、「アクティブラーニング」、「地域連携」等を中心とする大学教育改革に力を注いでいます。

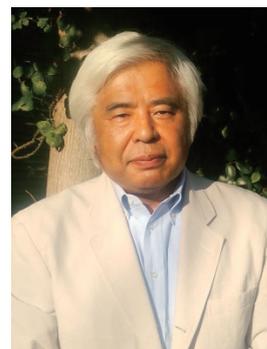


尾関 章（おぜき・あきら）氏

科学ジャーナリスト

「啓蒙から批評へ——早大物理こそ」

1951年生まれ。1977年早稲田大学大学院理工学研究科物理学及応用物理学専攻修士課程を修了後、朝日新聞社に入社。1983年から科学記者。ロンドン特派員、科学医療部長、論説副主幹などを務め、昨年退職した。基礎科学や生命倫理を主に取材。著書に『量子論の宿題は解けるか』（講談社ブルーバックス）、『科学をいまどう語るか——啓蒙から批評へ』（岩波現代全書）など。北海道大学客員教授。1週1冊のブログ「本読み by chance」を継続中。





早稲田大学 理工学術院 先進理工学部 物理学科・応用物理学科

<http://www.phys.waseda.ac.jp/>

早稲田大学 応用物理学科・物理学科のあゆみ

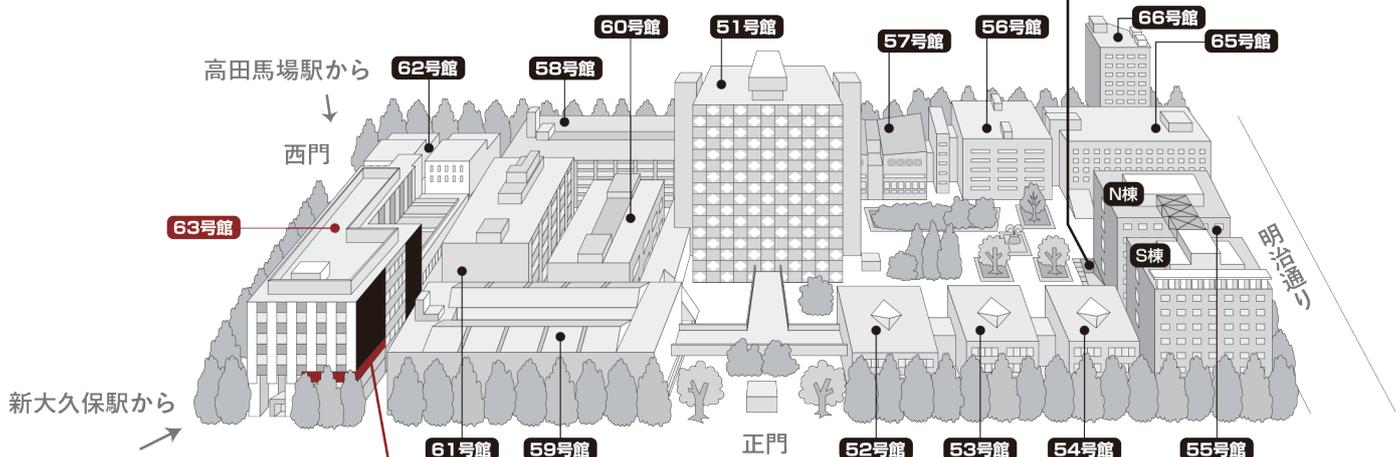
- 1949 (昭和 24) 年 応用物理学科開設
- 1954 (昭和 29) 年 応用物理学専攻修士課程開設
- 1961 (昭和 36) 年 応用物理学専攻博士課程開設
- 1965 (昭和 40) 年 物理学科開設
- 1967 (昭和 42) 年 大久保キャンパスへ移転
- 1973 (昭和 48) 年 専攻名を物理学及応用物理学専攻に変更
- 1979 (昭和 54) 年 応用物理学科 30 周年
- 1982 (昭和 57) 年 早稲田大学 100 周年
- 1993 (平成 5) 年 理工学研究所が理工学総合研究センターに改組
- 1995 (平成 7) 年 物理学科 30 周年
- 1999 (平成 11) 年 応用物理学科 50 周年
- 2003 (平成 15) 年 物理学及応用物理学専攻「21 世紀 COE プログラム」(文部科学省、研究課題名「多元要素からなる自己組織系の物理」) 採択 (5 年間)
- 2006 (平成 18) 年 理工学総合研究センターが理工学研究所に名称変更
- 2007 (平成 19) 年 理工学部再編、応用物理学科と物理学科は先進理工学部
早稲田大学 125 周年
- 2008 (平成 20) 年 理工学部 100 周年
東京メトロ副都心線開業、西早稲田駅がキャンパスに直結
- 2009 (平成 21) 年 キャンパス名を西早稲田キャンパスに変更
- 2012 (平成 24) 年 物理学及応用物理学専攻「卓越した大学院拠点形成支援補助金事業」(文部科学省) 採択 (2 年間)



記念会会場案内

早稲田大学 西早稲田キャンパス (旧大久保キャンパス)

東京メトロ副都心線
西早稲田駅出口



記念式・記念講演会会場 (63号館 2階)

